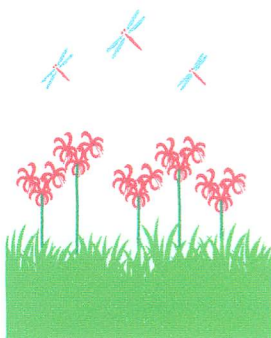


あさみ会報

朝見まちづくり協議会
あさみ会報編集部
発行責任者・鈴木三千夫
松阪市大宮町 209-4
朝見地区市民センター内
電話 0598-51-5643

2006.08.30 発行
第 8 号

《設立特集》



朝見まちづくり協議会

設立総会・式典が盛大に開催

設立総会で正式発足
平成十八年七月二十六日午後七時三十分より朝見市民センターにて、朝見まちづくり協議会設立総会が開催される。総会は代議員総会として各町から選出された代議員が参加した。

田均書記から提案し可決された。更に第三号議案 平成十八年度事業予算案を牧戸博昭会計より提案し可決された。最後に閉会宣言を北川敏雄副会長が行い、名実ともに朝見まちづくり協議会が発足した。

設立を祝福

また、朝見まちづくり協議会は平成十八年八月五日十九時より朝見小学校体育館で開催。二百余名の住民が参加する中、来賓に下村猛市長、田村憲久衆議院議員、森本哲生衆議院議員（代理）、竹上真人、福山暉康、中森弘幸市議会議長、前田行正、安達正昭市議が来賓として臨席された。東部管内の機殿、黒部、西黒部、榎田、漕代地区の代表の方々が招待者として参加された。

成十八年度事業計画案を西

成十六年より住民協議会の必要性を訴えてきて、相呼応して朝見地区の設立に感動すると共に、地域のことは地域で推進するとう理念に

来賓の方々から
まちづくりにエール
議員は、今の時代はそれぞれの地域が朝見のように住民協議会として自立して行くことが大事とし、旧市内で初めての朝見まちづくり協議会設立を祝した。県議員を代表して挨拶した竹上議員は、朝見の住民協議会設立のこの日を下村市長こそが、一番喜ばれているのではないかと設立の祝福した。市議会議長は田園風景の美しい朝見の地に住民自治組織の朝見まちづくり協議会の設立に支援を惜しまないと結んだ。また、東部管内の機殿、漕代、榎田、東黒部、西黒部各地区からの来賓を紹介した。閉会の辞は山路隆生副会長が、設立に際して住民の総意の設立となったことを、具体例を挙げながら祝福とお礼の言葉で結んだ。第一部の司会は奥田孝治、倉田義昭副部長が力強く式典を進行した。

全国初のこ当地クイズ！
第二部は全国初めての「こ当地朝見〇×クイズ大会」が開

始された。《解説》全国では「こ当地検定試験」として京都府が発祥のちであるが、地域起しとして実施して各地に広がっている。それをクイズに模擬して式典の行事として実施された。参加者全員でクイズを片付けた後休憩を取り、進行司会役の牧戸由美さんと朝見太郎博士の「皆さんこんばんわ！こ当地朝見〇×クイズ・・・」との第一声から開始。クイズのルールの説明のあと牧戸さんと朝見博士のユーモアたっぷりの進行で、〇×の回答に会場がフロアを移動した。問題は朝見地区内に信号機は幾つあるか？から古墳に関するものまで、全質問朝見関連の問題とし、回答ごとに解説がありクイズを楽しみながら、朝見を学ぶことが出来た。表彰式では、クイズが割られ最後まで勝ち残った最優秀の鈴木栄子さんには「朝見博士号証書」が、優秀賞の葛谷容子さん大津武光さん、中津ゆかりさんには「朝見学十号証書」が、田村正会長より授与された。



撮影者 葛谷 光繁 小林 幸生

災害時協力企業紹介コーナー
(大宮田) 茂谷工務店・珍田木材有限会社・大徳建設株式会社・上川運送株式会社
(下七見) 東部建設株式会社 (朝田) 株式会社北川鉄工建設 (佐久米) 小林ファームライスセンター (立田) 宝山石油株式会社・株式会社伊勢クレーン・荒木田製材所・中尾木材有限会社・株式会社ミック・鍛冶春建設有限会社 (古井) 有限会社松井工務店・榎産業有限会社・エムエフマツモト有限会社・岡田園芸・株式会社サンカ機工 (新屋敷) 宮前クレーン (上七見) 鈴木為郎農産・尙橋本電機・奥村農産 (和屋) ススキ産機有限会社・溝口土建・井上組・有限会社安達建設

- 1、自ら考え、立ち向かう
まちづくり
- 2、地域の声を反映する
まちづくり
- 3、行政と協働し、
よりよい地域を創造する
まちづくり

- 《本部役員会》
(会長) 田村正
(副会長) 橋本一男 山路 隆生
北川 敏雄
- (書記) 西田 均 長谷川 豊
(会計) 牧戸 博昭 鈴木 弘
(運営委員会委員長) 葛谷 光繁
(副委員長) 鈴木 理
(企画推進委員会委員長) 榎本 義謙
(事務局長) 鈴木 三千夫
(会計監査) 野林 梅之 清本 宗郎
(相談役) 田中 祐治 山崎 高裕
(運営委員会)
防災部会長 鈴木 理
防犯部会長 葛谷 光繁
福祉部会 鈴木 三千夫
公民会部会長 山路 隆生
青少年育成部会長 井阪 光晴
地域環境部会長 神崎 勉
(専門部会)
連合自治会長 田中 祐治
寿会長 藤井 たみ子
朝見幼少PTA会長 井坂 光晴
《企画推進委員会》
委員長 榎本 義謙
委員 野尻 順一 小林 純一 橋本 明雄
世古 且守 奥村 尚平 小林 静雄
長谷川 光生 小林 豊
《事務局》事務局長 鈴木 三千夫

設立特集

設立総会会長挨拶

会長 田村 正

本日は、お暑いところ、朝見まちづくり協議会設立式典に、かくも多くの町民の方々にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

また、市長・国會議員・県会・市会の諸先生方、並びに近隣地区のご来賓の皆様方には、夜とはいえ、暑さ厳しい体育館での式典にお越しいただき、本会設立に花を添えていただきまして、主催者としていたしまして心より感謝申し上げます。

さて、朝見まちづくり協議会設立につきまして、経過報告につきましては、平成十七年六月に朝見地区各種団体の会合の席で、朝見まちづくり準備委員会設立の提案を了承いただき、十町と県営団地を回り、設立についての趣旨を説明させていただきまして、八月三十一日、「朝見まちづくり準備委員会」が発足し、設立に向けての具体的な取り組みが始められました。

以来、朝見まちづくり協議会の設立目的、将来あるべき姿、会則、組織等について、協議・検討を重ね、それらを踏まえて、平成十八年六月に会則・組織の素案が出来上がり、二回目の十町と県営団地の説明会を行い、

皆様方のご理解をいただきました。また、その間、朝見地区全戸に呼びかけ、朝見地区防災訓練や、地区防犯運動、交通安全宣言署名など、朝見町づくりの一事業の方向性を皆様方に問いかけてきました。朝見まちづくり準備委員の事務所を開設し皆様方には、その間、仕事を終えられて疲れてみえるにも関わらず、十時・十一時と夜遅くまで討議を重ね、ご苦労いただきました。ありがとうございます。

まちづくりは 守りより攻めの 心意気で！

私たちは今、最初のハードルを越え、スタート地点に立ちました。



この朝見という地区を見てみますと、市域の中でも農家一戸あたりの 耕作面積が広く、自然環境に恵まれ、比較的豊かな農村として、のんびりとした土地柄を築いてまいりました。そののんびりさが朝見のよさではあるのですが、それだけでは済まされない、いくつかの考えねばならない問題が起きつつあります。



米の生産調整が厳しくなり、機械化貧乏という言葉にもあるように、お金のかかる農業に、農業から手を引く農家が、年々多くなってきました。



機械化が進み、作業が楽になったとはいえ、後継者の育成は大きな問題です。圃場整備の問題も抱え、今後、朝見の農業をどうしていけばいいのか、みんなが考え、よい方向へと進めていかねばなりません。



小学校の今年の六年生は二六名、一年生は十一名です。十町の中で、現在小学生がいない地区、あるいはあと何年かすると小学生が0という所もあるやに聞いています。

これは、まさに朝見を支える若い人たちが減って行くということ。若い人たちが住みたくて来たいという人たちの願いを叶えてあげられるまちづくりはどうあればいいのでしょうか。これまで、過疎という言葉はどこの山村のことかと思ってきましたが、朝見にもやがてその危機がやってくることを現実のこととして受け止めねばなりません。農業調整区域という枠組みの中で、私たちは何ができるのでしょうか。

朝見十カ町村、松阪市に合併するまでは、飯南郡朝見村として村長いて村議会があり、朝見としてのまとまりを今より持っていました。

しかし、今、町単位で何かまとまったことをすることはあ

ても、朝見としてまとまって行動するということは、小学校の運動会以外にほとんどありません。朝見十カ町村集まってこるとに当たれば、より大きな効果をもたらすはず。昨年行った防災訓練などは、その良い例でしょう。

自ら考え自ら 目標に立ち向かう 地域活動を

まちづくり準備委員会で、本会の会則を作る際、最も議論したのが、第二条であります。

第二条 協議会は、朝見地区における共通の願いの実現や問題解決を図ると共に、将来の朝見の在りたい姿の具現化に向け、住みよく、希望が持てる地域社会の構築を目指し、自ら考え自ら立ち向かう地域活動を行うことを目的とする。



これまでのように、行政からの呼びかけで動くのではなく、また、行政に陳情することで解決しようとするのではなく、朝見に住む人たちが意見や考えを出し合い、自分達ですべきこと、行政に積極的な援助を願うこと等、問題解決の道を地区全体のものとして捉え、立ち向かう。まさに「朝見の在りたい姿の具現化に向け、自ら考え、自ら立ち向かう」中で、住みよく、希望が持てる地域社会を創っていくことが本会設立の大きな目的であります。



町づくりは地区の皆様方の協力があるからこそです。市民センター玄関に設置する投書箱や、自治会長会議等で皆様方の声を集約すると共に、企

画推進に当たりましては、役員会・運営委員会で十分協議し、会員の皆様方のご意見が反映するよう、役員一同、本協議会の運営に努めたいと思います。どうか、今日お話ししました趣旨をご理解いただき、ご支援ご協力賜りますようお願いいたします。



ため、ご指導・ご尽力賜りますことをお願いして、私の基調提案とさせていただきます。



面推進に当たりましては、役員会・運営委員会で十分協議し、会員の皆様方のご意見が反映するよう、役員一同、本協議会の運営に努めたいと思います。どうか、今日お話ししました趣旨をご理解いただき、ご支援ご協力賜りますようお願いいたします。

人文字、朝見の

「あ」を撮影

平成十八年七月二十三日午後二時より人文字撮影。当日は今にも雨が降りそうな天候であったが設立記念シートに載せる、人文字撮影に各町より参加した。人文字は朝見の「あ」を参加者全員が文字の形に整列して行われた。記念撮影には一人でも多くの人が参加出来るよう、チラシ、回覧、放送等呼びかけた中、二百余人の方が参加した。このシートは朝見まちづくり協議会設立の記念品として、全戸配布され価値ある記念品となった。



平成 18 年 7 月 23 日 (日) 14 : 00 朝見小学校校庭 撮影

シート裏面には朝見トータルプランがイラストで描かれている。



撮影者 葛谷 光繁 小林 幸生氏



↑平成 18 年 7 月 26 日 設立総会の採決の会場 ↓式典の様子↑



↑東部管内からの来賓の方々



ご当地 朝見〇×クイズ大会

《出題問題集》

第1問

Q: 朝見小学校は立田町にある。明治二十一年十一月に始まった立田尋常小学校は、明治二十三年十一月に朝見尋常小学校と改称されました。その後、明治三十五年五月二十八日に朝見尋常高等小学校として、現在の地に落成し、朝見小学校はこの明治三十五年五月二十八日を創立としています。朝見国民学校、朝見村立朝見小学校、朝見立朝見小学校と名前を変え、現在に至っています。現在地は立田町でなく、大宮田町です。

第2問

Q: 榊田川の源は松阪市飯南町である。

A: 榊田川の源流は奈良県との境、松阪市飯高町の高見山を源とします。

第3問

Q: 朝見小学校は朝見地区の避難場所に指定されている。

A: ○耐震7以上の後者である

第4問

Q: 朝見を流れる川は、西から順に、「真盛川、金剛川、榊田川」である。

A: 真盛上人と真盛橋・時は室町時代、1600年より少し前の頃のお話です。久居の出身のお坊さんで真盛という方がおられました。真盛真盛は(1443年、一志田大仰で生まれ、十九歳で比叡山に登り、二十五歳の修行)、四十四歳で比叡山の修行を終え、念仏の教えを説いて各地を回りました。地藏菩薩を信仰し

ていた真盛は、津の西来寺というお寺から朝見の地蔵に百日間お参りする「百日参り」を続けていました。ある日、真盛が上川という川にさしかかると、昨夜からの大雨で橋が流され、村人たちは川を渡れず困っていました。その様子を見た真盛は、村人と協力して橋を架け、村人たちからたいそう感謝されました。村人たちは真盛の名を取って、橋を真盛橋と名づけ、上川を真盛川と改めたそうです。真盛川・真盛橋には、こんな話が残っています。さて、川の順ですが、「真盛川、金剛川、榊田川」ではなく、一番西が金剛川次いで真盛川榊田川の順です。



第5問

Q: 田村会長の話の中に出てきましたが、朝見小学校の六年生は二人、一年生はその半分以下の十人一人である。

A: 現在の朝見小学校の年生は二十六名、さて、一年生は十一名。現在、大宮田町の小学生は〇人、朝田町もこのま

まだと、三年先には小学生が0という年が来る」と聞いています。今年の6年生は二十六人、一年生は十一人です。朝見小学校の児童数が百人を切るのももうすぐです。子どもが少なくなってきたことは、朝見にとって活力をなくす大きな問題です。朝見まちづくり協議会にとても大きな課題の一つです。

第6問

Q:朝見の人口は六月末現在2240人です。では、「十五歳以下と六十五歳人口を比べると、十五歳以下の人口の方が多い。」
A:七月一日現在、十五歳以下の人数は296人、六十五歳以上の人数は557人。よって「十五歳以下の人口の方が多い。」



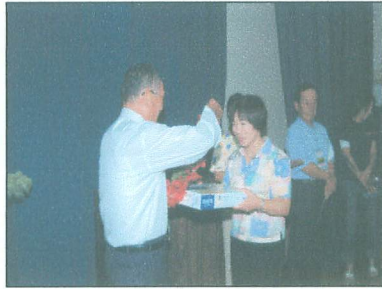
第7問

Q:朝見には百歳を越えた人は、一名もいない。A:百歳を迎えたお祝いに松阪市長が訪問という記事が覚えていますか。朝田町の三田し

さんが、現在朝見の最長寿者で、息子さん夫婦の介護のもとで、食欲もあまりで元気がこのことです。百歳を越えてお年寄りは三田しなさん一人です。

第8問

Q:三重高校野球部が十一年ぶりの甲子園出場を決めたことは、皆さんご存知だと思います。その中の選手の一人、鶴川瑛司君は和屋町の出身です。朝見から初めての甲子園児の誕生です。おめでとございませう。そこで問題です。



第9問

Q:大宮田町には、小学校・松阪農協朝見支所・朝見駐在所がある。A:朝見小学校・松阪農協朝見支所は大宮田町ですが、朝見駐在所は佐久米町なのです。

第10問

Q:昭和二十三年十二月二十五日、朝見村は松阪市に合併しました。朝見村立朝見小学校については第1問でふれましたが、ここで問題、朝見村には朝見村立朝見中学校もあつた。

A:昭和二十二年四月一日から松阪市に合併するまでの一年九月、短い期間ですが、この間朝見小学校に併設して朝見中学校がありました。公民館長の山路隆夫氏はこの中学校に通っていたそうです。

第11問

Q:朝見には交通信号は、点滅信号を含め5つある。A:和屋に点滅、ローソンのある立田交差点、42号線バイパスの松阪可織朝田交差点、佐久米交差点、国道23号線の古井町交差点(西黒部2)の6つです。



第12問

Q:佐久米町には5世紀後半(450)500年)の古墳が二基残っています。金剛川と真盛川の間にあるのが糠塚、糠塚と真盛川を挟んで東にあるのが丸山塚です。もう一基は明治三十五年、県道松阪大淀線の工事に伴って、壊されてしまいました。そこで問題です。明治25年の『飯南郡佐久

米村全図』よりその規模や形を推測すると、大塚山古墳は、円墳に横長の長方形がつつついた、帆立貝の形に似ていることから『帆立貝式古墳』と呼ばれる全長45m古墳であったと考えられる。

第13問

Q:大塚山古墳からは、乗馬用、つまり馬に乗るときに着ける、冑と短甲という鎧が出土しています。特に冑は、金メッキがされており、保存状態もよいものでした。残念ながら今は日本になく、アメリカのボストン博物館に保管されています。



A:冑は非常にいいもので、日本上代の冑という本にも写真が出ています。(このときいっしょに出した銅鏡は、

松阪市文化財センターに保管されていますが、冑の方は、アメリカに渡り、ボストン博物館ではなく、メトロポリタン美術館に保管されています。



第14問

Q:先ほど、佐久米古墳群に関する問題をだしましたが、さて、朝見に人が住み、農業を始めたと考えられるのは、古墳が造られるより少し古い、古墳時代の初め、4世紀である。A:42号線バイパス、朝田の信号交差点辺りの発掘調査で、環濠とよばれる弥生時代後期の溝が見つかりました。また、和屋町東(清水地内ですが)では方形周溝墓という弥生時代後期お墓も見つかっています。今、このところの2つが、この地に人が住むようになったことを証明する事例で、西暦でいえば一〇〇年を過ぎたあたり、二世紀の初めころと考えられます。

第15問

Q:参宮街道とは、松阪城下を出て、下村・上川・伊賀町・榎田と通る道のことですが、それまでの街道は「朝田・立田・清水・榎田川をわたり...高木へ」と続くとありました。A:蒲生氏郷が城下が栄えるようにと付け替えたのが、いわゆる参宮街道で、それまでは「朝田・立田・清水・高木・齋宮」を通過してました。

第16問

Q:朝田・立田・榎田に続く県道松阪伊勢線は、県道27号線である。A:37号線です。

第17問

Q:朝見10町には、それぞれ氏神さんがおまつりされている(お宮さんがある)。A:下七見の神社は、上七見の奈久見神社に合祀してる。

第18問

Q:朝田の地蔵さんで有名な朝田寺の本尊地蔵菩薩は、明治37年、三重県の国宝第1号指定された。

第19問

Q:立田町の西、集落の入り口には平安時代の僧、法然上人を偲ぶ碑が立っている。A:法然ではなく空也上人(抜粋して掲載しました)

